


編集・発行：日本マラウイ協会 g106 東京都港区南麻布 5-10-24 第 2 佐野ビル 702 Tel. 03-3447-2181 Fax. 03-3447-2933



Kwacha (クワチャ) はチェワ語で「夜明け」を意味します。

NO. 10

日本マラウイ協会発足 10周年に寄せて

日本マラウイ協会副会長
秋山 忠正

日本マラウイ協会

発足以来、満10周年を迎えた事に喜びを禁じ得ないと共に、関係各位の努力に深い敬意と感謝の念を表明いたします。

この東アフリカの内陸の小国と日本との結びつきは、青年海外協力隊との交流、更にそれを持続し支えてきた日本マラウイ協会との関係以外の何物でもない



ヤMACHINGA の姉妹

撮影：63-3 松平 隆一 (OB)

と申しても過言でないと思います。

思えば協力隊派遣開始以来既に22年、派遣隊員も800名台の半ばに達し、フィリピンと並んで世界中でも最大派遣国となっているわけです。

私自身もこの国とは15年以上のつき合いです。その間、悲しい事、うれしい事と色々ありました。昔ながらの低いGNP、政治的閉鎖性というのは依然継続してはいますが、協力隊との結びつきは切っても切れないものがあると思います。水と山と緑に囲まれた美しい風土、素朴な国民性、これは決して忘れる事のない思い出です。私はかつて隣国タンザニアの協力隊担当官から、「日本は何故、政治的、経済的にもそれ程縁のないマラウイに、あれ程の支援をするのか？」と半ばやっかみ加減に質問された事があります。私はその時こう答えました。「それはマラウイの人々が我々を必要とするからです。」その意味ではマラウイに対する協力隊の支援は、支援活動の原点に最も忠実なものとも言えます。

悲しい思い出と言えば、隊員の事故死、痛ましい病死があります。特に1985年のキリマンジャロ山麓での多数隊員の事故死の思い出は永久に忘れる事が出来ません。

しかし一方ではマラウイに対する誇らしい思い出もあります。1984年、全アフリカを襲った大旱魃(その時エチオピアでは100万人の餓死者を出した)の時、サハラ以南の十数ヶ国が世界に救援を求めて必死の時にマラウイは自力で切り抜け、更に隣国モザンビークにメイズの緊急救援を行ったのです。「アフリカ人によるアフリカ人の救援」と私は外電を見ながら自分の事のように誇らしく思いました。先般、東京にマラウイ大使館が開設され、挨拶の機会を与えられた私はこう述べました。「マラウイと日本との関係は従来20年以上、協力隊関係者が持続してきたが、今日からはあなた方が文化的、政治的、経済的に発展させて下さい。ソ連の崩壊を期にアフリカは1960年以前、否それ以上に不安定な状況に戻りつつある。アフリカの前途は多難です。しかしマラウイに関して言えば、百数十年前リビングストーンがアラブの奴隷商人からマラウイを救った時、今日ここ日本に進出してきたマラウイの姿を想像したであろうか。我々は困難にもかかわらず歴史の前進を信じようではないか」と。

複数政党制をめぐる国民投票等、現実にはマラウイをめぐる状況は厳しいものがあ

ります。しかし我々は歴史の進歩を信じ、友情にもとづく一層の支援を続けたいと思う。「日本マラウイ協会設立20周年」が希望と豊かさに満ちた記事になる事を祈りつつ。

査証発給開始

～駐日マラウイ大使館～

駐日マラウイ大使館では平成4年9月24日から、同国への渡航者に対して査証(ビザ)の発給を開始した。同国の査証はこれまで駐日英国大使館で扱われていたが、マラウイ大使館開設に伴い、直接発給されるようになったもの。

査証申請に必要な書類等はつぎのとおり。
申請書(大使館にある。)

パスポート(マラウイ滞在中に有効期間が切れないもの)

写真1枚(パスポートサイズ、厳密なサイズ規定はない)

滞在中の支出に見合う財源または手段を証明する書類

(保証人、銀行、旅行代理店等の証明書類)
手数料5,000円(領収書が発行される)

査証には2種類あり、一回入国査証は3ヶ月間有効、数次査証は6ヶ月間有効であるが、手数料は同じである。

予防接種証明書(イエローカード)は査証申請時には必要ないが、入国時には保持していることが望ましい。(コレラおよび黄熱病。特に黄熱病は汚染地域を経由して入国する場合は必須)

同国を通過する場合にも査証は必要であるが、空港でのトランジットだけの場合は必要ない。

入国時の条件としては、男性の長髪、女性のスラックスおよび膝の見えるスカートは認められていない。また、長期の地方滞在予定者はマラリア予防薬の携行が望ましい。(マラウイ都市部では入手容易)

窓口時間は月～金曜日の午前10時～正午まで、受付から発給までには大使館の開館している日で少なくとも2日間かかる。(例：月曜申請 水曜発給、金曜申請 翌週火曜発給) さらに詳しいことは下記×へ問い合わせを。

〒141

東京都品川区北品川6丁目5-2

渡辺ハウス3号

駐日マラウイ大使館

Tel 03-3449-3010 Fax 03-3449-3220



MALAWI NEWS

1月2～8日号から抄訳

マラウイが複数政党政治に復するか現在の単一政党制度を保つべきかどうかを決めるための国民投票が行われることになった。

ヘイスティング・カムズ・バンダ終身大統領閣下は12月31日夜のMBCラジオ全国放送で、この国民投票を3月15日に実施すると発表し、国民投票に先だって行われるべき様々な活動を考慮したと述べた。

これには選挙人登録簿の更新、国民投票のための公衆教育、国民投票までの過程の日々の活動を管理・監督するための中立な国民投票委員会の即時設立が含まれる。

また終身大統領は、自由で公正な国民投票が行えるように、複数政党制度の主唱者に対して集会を開いて国民に彼らの主張を説明することを許可したと述べた。これら集会は国民投票の目的だけに限るとしている。

しかし、終身大統領はマラウイ会議党員および圧力団体(複数政党制主唱者)の構成員とも、これらの集会を開く前に地元の警察に届けを出し、事前の許可を得なければならないとした。これは警察がこれら集会が平和的に行われることを確実にするために所要の対策を取れるようにするためである。

「私は全国民の皆さんにこの国民投票を

大変重要なものと捉えるよう訴える。それは皆さんがマラウイ会議党と単一政党制度を支持するか、それともこの国を複数政党政治にもっていきたいのかを意志表示するための機会だからです。」と終身大統領は述べた。

国民投票に関する大統領のその他の主な言葉はつぎのとおり。

(1) 国民投票が適切に行われるように、私は国連チームを呼び、自由で公正な投票の実施のために助言を求めた。国連チームは報告書を提出し、我が政府はその勧告をほとんど受け入れた。一つだけ受け入れられなかった勧告は、投票日に各投票場で一つの投票箱を用いるということである。この提案はある国で投票過程の秘密性を高めているということから行われた。マラウイではこれは困難である。というのは、我々はこれまでいつもそれぞれの候補者に対して一つの投票箱と対応するシンボルを用い、複数の投票箱を使ってきたからである。(注：識字の問題のためと思われる)複数投票箱を用いても適切な事前対策を施せば単一投票箱を用いた場合と同じレベルの秘密性を達成することができる。従って、投票者の混乱を避けるべく、複数投票箱を用いることに決めた。一つは単一政党制度の支持者が投票する箱、もう一つは複数政党制度の主唱者に投ずるための箱である。

(2) 私立の報道機関が国民投票のための集会でのニュースや出来事を報道するのは自由であるべきである。何人も報道機関を命令すべきでない。報道の自由があるからで

ある。マラウイ放送協会(MBC)もまた両派の国民投票集会に関するニュースや出来事を報道することを期待される。しかし、私はMBCが何人に対しても党人の政治的放送のためや、有料の政治的宣伝のためにラジオの時間を割り当てることを許さない。

(3) 我々は国民投票が自由で公正なものであることを保証しなければならない。その結果、平和と静けさ、法と秩序を保たなければならない。私は、マラウイ国民が外部の影響を受けずに自分達の間にある意見の相違を自ら解決できるということを信じてやまない。

The Japan Times

2月7日号から抄訳

マラウイ政府は2月5日、国連および反体制派側の要求に応じ、国民投票を3ヶ月延期すると発表した。しかし、反体制派側は直ちに「賛成」、「反対」を別々の投票箱に投票する方式の変更などが認められなければ投票をボイコットすると発表した。

隣国ザンビアで傍受したMBCラジオ放送によると、カムズ・バンダ大統領は北部のムズズでの支持者への演説で、ガリ国連事務総長からの書簡に応じて投票を3月15日から6月14日に変更すると述べた。同書簡は明かに、投票日が発表された12月31日からわずか2ヶ月半後の実施では投票の公正さを憂慮するとしているものと見られる。

K カバロさん来日

JICA/JOCV マラウイ事務所で新協力隊員のチェワ語訓練講師として永年勤めているカバロさん(Mr. Gilder Samson Kavalo)が平成4年9月19日香港からの日本航空機で来日した。これはカバロさんがアドベンティスト教会青少年グループで指導者として活動していることから、平成4年度総務庁「外国青少年指導者招聘事業」



において日本マラウイ協会が(社)青年海外協力協会に推薦を依頼し、総勢11名のうちの1人として来日が実現したものの。来日当日の機内では、51年1次隊の鶴田伸介マラウイOBと全く偶然に出会うという幸先のよいスタートとなった。

参加者全員はまず9月19日～27日に(社)青少年育成国民会議が東京で実施する合同プログラムを受講し、そのあと9月27日～10月22日に各受入団体が実施する個別プログラムに移行した。10月22日～24日には参加者全員が広島に集合し合同プログラムを実施、25日に東京へ移動し26、27の両日に評価会、閉講式等が行われた。

当協会は個別プログラムの受入団体となり、各地のOB会やマラウイOB/OG

に地方での研修プログラム作成や世話を依頼したところ、いずれからも協力を惜しまない返事が寄せられ地方色豊かなプログラムを実施することができた。個別プログラムで訪問した地域とスケジュールは次のとおり。仙台(9/27～10/2)、東京(10/2～9)、名古屋/浜松(10/9～12)、大阪/京都(10/12～15)、福岡(10/15～17)、熊本(10/17～18)、長崎(10/18～22)

東京滞在中は都内見学(10/4)、協力隊事務局表敬訪問/広尾訓練所視察/マラウイ隊員候補生との懇談会(10/5)、駐日マラウイ大使館表敬訪問(10/8)などが行われた。また10月7日には西新宿のレストラン「デゼール」で新旧OB/OGをはじめ現隊員の留守家族らが集い、来日歓迎会が開かれた。

カバロさんは40日間の日本滞在を終え、10月28日、成田空港から帰国の途についた。

※東京地区カバロさん歓迎会

日本、難民援 助資金供与

Daily Times 1992 年 12 月 11 日号から抄訳

ケニア、ジブチ、コートジボアール、シエラレオネ、ギニア、エチオピア、ソマリア、ザンビア、ジンバブエ、マラウイのアフリカ 10 ヶ国は国内にいる難民の集結と安全な帰還費用として総額 980 万米ドル (約 12 億 2500 万円) の資金援助を日本政府から受けることになった。

ザンビア・ルサカの日本大使館の報道発表によると、日本政府は難民受入国の深刻な旱魃や社会経済的な負担を考慮して、国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) のアフリカ援助計画に寄与することを決めた。

モザンビーク難民を最も多く受け入れているマラウイは (100 万人以上) この援助資金のなかで最高額である 170 万米ドル (約 2 億 1250 万円) を、他の国々はそれぞれ 10 万米ドルから 150 万米ドルを受け取ると発表された。

この資金はソマリア、モザンビーク、リベリア難民への援助、国境周辺の保護地域での救援援助、および帰還者の再集結のための援助を含むいくつかの計画を賄うとされている。

pQ.E.C.H. 薬不足

Daily Times 1992 年 12 月 9 日号から抄訳

ブランタイアのクィーン・エリザベス中央病院は医薬品と医療用品を緊急に必要としており、ブランタイヤ市当局に対して緊急援助アピールを行うよう促した。

病院の高等医局長ジョングマン博士はデイリータイムズの取材に対し「病院の医薬品供給元であるリロングウェの中央医局倉庫が底をついているので、これからの数ヶ月にわたって当

病院に来ないと予想さ

れる薬がいくつかあ

る。」と語った。

ジョングマン博

士は不足品リス

トとして、寄

生虫病を治療

するアルベ

ンダゾール

のような錠

剤、分娩し

た女性に

使うエル

ゴメト

リン (子宮収縮剤) 抗痙攣薬として用いられるフェノバルビトンをあげた。

さらにストレプトマイシン、ベンザチンペニシリンのような抗生物質を含む注射薬、輸血セット、輸血や点滴に使われる静脈カニューレも必要としている。

病院が出したアピールの手紙には「当病院で必要としている品目のリストを添付しますが病院の資金源は十分ではない。」と述べている。リストにはベッド用品、リネン、はさみ、かんし、ピンセット、注射針保持器の各品目が含まれている。

博士は「病院は資金が足りない。そのため支出を 25% 切り詰めなければならない。」と述べた。クワチャの切り下げと援助提供国による援助の停止は、ほとんどそれらの国からの購入に頼っていた薬の調達に問題をおこす深刻な財源不足を招いた。マラウイを含む南部アフリカの旱魃も事態をより悪くしている。

高等医局長はまた、死亡者を仮安置所にもう収容できないことにも懸念を表した。12 人しか収容できない死体仮安置所は一日平均 30 人の死亡者で一杯である。患者数の増加によりこの病院での平均死亡者数はここ数年で急激に増え、ブランタイヤ市で唯一の死体仮安置所は不十分になった。「これは、エイズのような伝染病、交通事故、そして今や 1,200 ~ 1,500 人の入院患者をかかえ、一日 3,000 ~ 5,000 人の外来患者を扱うまでになったことによるところが大きい。当初、400 床の病院用に作られた 12 人用の死体仮安置所では不十分である。」と博士は述べた。また、市当局を含む他の機関が他の私立病院からもくる死体を収容するための独自の仮安置所を作るべきと示唆した。

ルーク・ジュンベ ブランタイヤ市長も大きな会社や機関に対し、病院に薬や血液、死体仮安置所の拡張について援助するようアピールした。



堀内大使信任状奉呈

Daily Times 1992 年 12 月 17 日号から抄訳

ハイステイング・カムズ・バンダ終身大統領は昨日 (12 月 16 日) サンジカ宮殿で新しい日本国大使である堀内伸介氏より信任状を受け取った。

終身大統領は日本からの新外交使節に対して、若くて開発途上のマラウイは友好的政府から得られる全ての経済・技術援助を必要としていると述べ、日本がマラウイ国内の数多くの開発計画に継続的に援助していることに感謝の意を表明した。しかし大統領はまた、新外交使節 (通常、ザンビア・ルサカの日本大使館にいる) に対し、農業と工業分野にまだ投資の余地があると述べた。

堀内大使は信任状奉呈に際し、二国間の相互の暖かい関係にさらに貢献するよう任期中は全力を尽くすと述べ、これは今年 (1992 年) 初めの東京へのマラウイ大使館開設によっても成功裡に実現されるだろうと述べた。大使はまた、国民が社会経済開発に対して力強く努力しているマラウイのような国の大使に任命されたことを誇りに思うと述べた。

堀内大使は、現在の日本とマラウイの密接かつ友好的な関係が保たれることを望む天皇陛下からの真心をこめた挨拶を終身大統領に伝えるとともに、マラウイ政府とマラウイ国民が二国間の友好的関係を深めるため、大使に協力してくれるよう期待を表明した。



帰国 報告



平成 2 年度 2 次隊 薬剤師 徳田 詠子

1992 年 12 月 12 日、飛行機の窓から見える空は、どんよりと灰色がかった雲に覆われている。2 年振りの日本だ。「日本に帰って来たんだなあ。帰って来たんだなあ。帰って来ちゃったんだなあ・・・」いろいろな気持ちが交差する。

空港のロビーに出ると、迎えに来ていた姉が私に気付かずに通り過ぎていくのが見えた。「お姉ちゃん！」と私は次の瞬間に来るであろう 2 年振りの感動的な姉妹の再会の図を頭に描きながら、姉の肩を叩いた。が、振り向いてこちらを見た彼女の表情には、2 年振りに可愛い妹に会えたという喜びは見受けられなかった。「えっ？ エーコ、あなたなの？」彼女は、私を東南アジアからの出稼ぎ娘だと思っていたようだ。

次の日は、街に買物をしに出てみた。「ハイ、タクシー！」おっといけない。タクシーを呼ぶ時、思わず「マトーラの手」が出てしまった。

2 年振りに見る日本の街は刺激的である。丁度クリスマスの時期で、赤、緑、白を基調に飾りが施され、目に入るもの全てが小奇麗にまとまっている。クリスマスソングを聞きながら歩いていると、訳もなくウキウキしてくる。

道行く女性達は、色が白く、お化粧をばっちりきめていて、とても綺麗な。でも何か変だぞ？ 彼女達が鶏に見えてくるのだ。今流行のくるんと上げた前髪は鶏冠のようで、短いコートをひらひらさせてペチャクチャおしゃべりしている姿は、鶏の集団という感じである。

男の人はプロポヨして見える。マラウイアンを見慣れた目には、痩せている人でもそう写ってしまう。それにしても、学生さんのバッファローのような髪型はどうにかして欲しいものだ。

かく言う私も、美容院に行ったら、頼んでもいないのにインスタントの鶏冠を作られてしまった。これで私も鶏さんの仲間入りである。日本のギャルを白い鶏だとしたら、さし当って私は茶色いチャボというところだろうか。

こんな具合で、ブツブツ言いながらも日本の生活に戻りつつある今日この頃である。そんな中で、ふとマラウイのみんなの顔を思い出すことがある。クリスマスで華やぐ街や大きなステレオ、女性のミニスカート姿なんて見たら、彼らはきっと「ホッポー」「シェー」なんて言って目を丸くするだろうなあ・・・。

Information Corner

お詫び

KWACHA 第 9 号、マラウイ大使館参事官 Z. T. Soko 氏の英文寄稿記事本文 3 ~ 4 行目で次の下線部の字句が脱落していました。お詫びして訂正します。

is to promote cultural economic and political relations between Malawi and Japan and to further strengthen these ties

総会のお知らせ

平成 4 年度の日本マラウイ協会総会を下記のとおり開催します。会員の皆様は同封の葉書にて 4 月 30 日までに出席をお知らせ下さいませますようお願いいたします。

日 時 平成 4 年 5 月 15 日 (土) 15:00 ~ 17:00

場 所 東京都渋谷区 ヒルポートホテル TEL03-3462-5171

議 題	平成 4 年度決算	平成 5 年度予算	平成 4 年度活動報告
	平成 5 年度活動方針	役員改選	その他

大懇親会のお知らせ

日本マラウイ協会ではマラウイ独立 29 周年を記念して、平成 5 年 7 月 3 日 (土) (予定) に大懇親会を開催します。詳細は追ってご案内しますので、多数のご出席をお待ちしております。

日本マラウイ協会ビデオライブラリーについて

日本マラウイ協会では当協会のオリジナル作品 5 本をはじめとするマラウイやアフリカ関連のビデオテープを、広く会員の皆様に返送費のみのご負担で貸し出してあります。主なオリジナル作品の内容は次の通りです。(全て VHS、1 本 120 分) 会員以外の方にも有料で貸し出しますのでご希望の方は葉書で下記の当協会までお申し込みください。

(1) マラウイ独立 25 周年記念式典 (1989 年 7 月)

カムズスタジアムで独立記念日に催された式典とお祭りなどを紹介

(2) From Warm Hearts of Africa

マラウイの暮らしと風物をエッセイなどと共に紹介

(3) Malawi 1988-1990

フュージョンサウンドをバックにマラウイの風景と JOCV の活動現場を紹介

詳しい内容や、その他のテープの内容については別紙を御参照下さい。

国際看護交流協会を知っていますか？

標記の協会は途上国からの看護研修生受け入れ、国内での研修・講習会、新聞「国際看護」の発行などを行っています。また、JICA・協力隊 OG、NGO 関係者の途上国での活動体験を共有し、情報交換の場となるよう「看護の国際協力を考える集い」なども不定期に開催しております。このような活動に興味のある方、参加してみたい方は、協会への入会を下記あて葉書でお申し込み下さい。

〒102 東京都千代田区九段北 3-2-4 メジカルフレンドビル

(財) 国際看護交流協会 TEL03-3264-6667

現地隊員の皆様へ

KWACHA 編集部では現地隊員の皆様からのお便りや原稿をお待ちしています。ご自分の活動内容に関するもの、住んでいる町の話、隊員間で話題になっていること、当協会に希望することなど何でも結構です。随時 KWACHA に掲載し、お手伝いできることをしたいと考えています。宛先は下記をご参照ください。

入会のおすすめ

日本マラウイ協会 (Malawi Society of Japan) は日本とマラウイ両国間の理解を深め、文化、スポーツ、経済、科学技術等の協力を通じ、相互の繁栄に寄与することを目的とする任意団体です。趣旨をご理解の上、広く各位の入会を希望します。電話をいただければ入会申込書をお送りしますので、各項記入の上ご返送ください。また、入会金と年会費の合計 (個人正会員の場合 1000 円 + 3000 円 = 4000 円) を下記の銀行口座または郵便振替口座へお送りください。(郵便振替口座が安く便利です。)

〒106 東京都港区南麻布 5-10-24 第 2 佐野ビル 702 日本マラウイ協会

TEL03-3447-2181 FAX03-3447-2933

三和銀行 東恵比寿支店 普通口座 255739 口座名義人 日本マラウイ協会会長 ト部敏男

郵便振替 東京 9-13125 日本マラウイ協会

また、協会規約その他についても上記宛お問い合わせください。

会費納入のお願い

会員の方は平成 4 年度会費を上記口座へ送金をお願いします。(個人正会員年 3000 円) 皆様の会費によってこれらの資料をお送りしております。各自の負担を均等に心がけていただきますよう御協力をお願い致します。なお、郵送の必要の無い方は至急お知らせ下さい。